

子どもの風邪(カゼ)と間違えやすいお薬の話

ドクターズコンテンツシリーズ # 35

はじめに

私たちにとって、よくかかり、その名前を聞き言う、身近な風邪(カゼ)。

でも、実際には風邪(カゼ)の中身・お薬を使う本当の目的・ワクチンを受ける意味が十分に知られていないようです。今回は、育児をされるパパ・ママのために子どもの風邪(カゼ)との向き合い方や、お薬の正しい使い方などをお伝えします。



Doctor
ともどもクリニック
おた としかず
太田 智和 先生

風邪(カゼ)とは?

風邪(カゼ)はウイルスによる感染症で、もとなるウイルスは200種類以上もあると言われています。中耳炎や副鼻腔炎、気管支炎といった「こじらせた症状」は風邪(カゼ)によって弱くなった粘膜に「細菌」が感染して起こる二次感染です。

人間の体は、ウイルスにも細菌にも免疫力和体力で戦いますので、それらが低下している時には体調を崩しやすいです。加えて、子どもやお年寄りはおもとも免疫力和体力が低いので注意が必要です。

ウイルスと細菌

■ウイルス



風邪(カゼ)の元となるウイルスは細菌よりもはるかに小さく、自分の力だけで分身を作ることできません。他の生物の細胞に寄生し、その細胞の仕組みを利用して自分のコピーを作らせ、どんどん次の細胞を乗っ取ります。ウイルスのいくつかは、非常に少ない数であっても爆発的に増えます。

風邪(カゼ)薬とは?

「風邪(カゼ)薬」はウイルスそのものに効くわけではありません。免疫力を高めるために必要な「質の良い睡眠」を取る手助けをしていると考えましょう。

■細菌



細菌は、それ自身がひとつの細胞で、分身を自分で作って増えることができます。私達の身のまわりにもともと細菌が多く存在していますが、人の持っている免疫力で抑えつけることができます。ところが、免疫力で抑えきれないくらいの細菌や、少しの量でも悪さができる細菌が体内に入ると、体調を崩してしまいます。

抗生物質とは?

抗生物質は細菌をやっつけるための薬で、ウイルスには効きません。風邪(カゼ)をこじらせて細菌に二次感染している場合に処方されます。

薬にまつわるあれこれ

もらった「薬」はいつから効くの?

薬が処方されたら、かかった先生に薬の特性や効果が表示されるまでにかかる時間などをしっかり確認しておきましょう。ちなみに「**抗生物質**」は服用してから「**48時間以内**」に効きます。

効いていない薬を続けるのは子ども達にとって有益ではありませんので、注意してください。

良くなったと思うから、「薬」をやめていい?

「風邪(カゼ)薬」は風邪(カゼ)が治ったら服用をやめて当たり前です。しかし、「**抗生物質**」は「**風邪(カゼ)薬**」では**決してありません**。抗生物質は細菌の力が弱まる日数を考えて処方されているので、きちんと処方せん通りに服用してください。また、服用をしている経過中に時折「抗生物質の副作用」が出現してくる場合があります。その際にも、自己判断で中止せず、医師に必ず相談のうえで、抗生物質の服用をどうするべきかを決めましょう。

薬は服用したけど、良くならない! どうしたらいい?

さまざまな理由が考えられます。症状が改善しない場合は、再度医師に受診して相談してください。

子どもの体力、大人の体力

人の体を車に例えてみると、「体力」はガソリンです。ガソリンはガソリンタンクに常に補充されていてガソリンがなくなれば車は走ることができません。子どもは、ガソリンタンクの容量が小さいためガソリンタンクがなくなりやすいのが特徴です。短期間の周期で体力がなくなったり回復したりを繰り返すため、容態が急変しやすいのです。

大人はガソリンタンクの容量が大きいため、体調を崩しても急激に容態が悪くなることは少ないです。この点で、大人と子どもは違うということ覚えておきましょう。



この他にも...

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- 風邪(カゼ)ウイルスの感染の仕方
- 抗生物質は必ず飲まなければダメ? など掲載中!

アイチケット 広場



<http://park.paa.jp/>